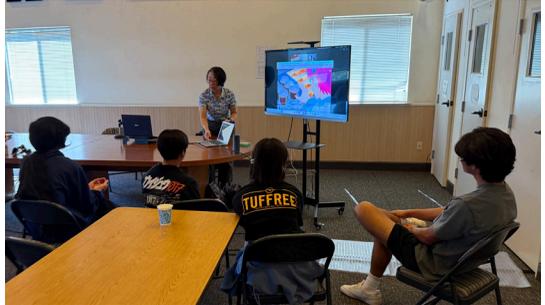


一カク



「通訳者養成講座」「翻訳会議」

～ アメリカ伝道庁翻訳委員会～

翻訳は文書を通じて、通訳は場面を通じて伝道庁の活動、また日々の信仰を支えています。去る10月18日、通訳者養成講座(写真上2枚)が開催され、7名が参加しました。次代を担う学生層の参加者が目立ちました。また、11月3日から7日まで翻訳会議(写真下2枚)が開催され、7名のメンバー(管内3名、ハワイ2名、海外部翻訳課2名)が、真実の道～おたすけ編～の翻訳を検討しました。

天理教アメリカ伝道庁

No.936

NOVEMBER

2025



TenrikyoAmericaCanada.org



つらつらせんがく 熟々浅学



— QRコード —

先月 26 日、本部にて立教 188 年秋季大祭が執り行われました。その折、真柱様がお言葉をくださいましたので、それぞれで「天理時報」や「みちのとも」、或いは「Tenrikyo Online」でご確認していただき、真柱様の思召を心に治めていただきたいと存じます。

今月 15 日、伝道庁にて「ようぼくの集い」が開催されます。この巻頭言を読まれる頃には終わっているかもしれませんが、無事に開催されて、教祖 140 年祭に向けての年祭活動の弾みとなることを期待しています。

さて、2010 年に庁長として着任してから、着任挨拶と管内の様子を把握するために、管内の教会を巡教しました。その際、近場やカリフォルニア州内では自動車で移動しましたが、他州の巡教には飛行機を利用しました。その際、E-Ticket という航空券があって、それを印刷した控えを持って空港カウンターでチェックインをしていました。シンガポール出張所長時代には、私が学生時代で使用していたカーボン式航空券とほとんど同じサイズの横長の用紙に、横書きで航空会社名や飛行機発着の日時や便名などの情報が印刷されていた航空券を使っていました。その頃にはまだ E-Ticket は普及してなかったと記憶しています。E-Ticket とは、紙媒体ではなく、航空会社のシステム内に電子的に保管・管理されている航空券です。空港でのチェックインの際には、自宅のパソコンなどで印刷した「E-Ticket お客様控え」を持参し、空港カウンターで身分証明書（以下、ID）と共に、それを提示してチェックインを済ませ、搭乗券を入手する流れです。ですから、印刷された「E-Ticket お客様控え」を紛失しても、データが残っているので再度印刷することは可能です。

伝道庁に着任した頃も、おぢばがえりの際の旅行会社発券の航空券は、先述のように横長の紙に搭乗者名、航空便名、発着情報などが印字されていました。

その後、数年して、「E-Ticket お客様控え」を自宅で印刷するよりも、搭乗券自体を自宅で印刷するようになりました。印刷した搭乗券には一次元バーコード（以下、バーコード）が印字されていて、ID の提示と共に、それを保安検査場やゲートにあるバーコードリーダーで読み込んでもらうだけで飛行機に搭乗することが可能になりました。つまり、預け荷物がなければ空港カウンターでのチェックインが不要になり、自宅で印刷した搭乗券と ID があれば、そのまま保安検査場を通過してゲートに向かい、飛行機に搭乗できることが可能になったのです。

最初の頃はそのシステムを非常に不安に感じていました。自宅で印刷した折に、何か問題が発生して印刷できなかつたり、バーコードが綺麗に印刷されなかつたりして、保安検査場や搭乗ゲートで拒否されたらどうしようかと思うことがありました。その頃は、スマートフォン（以下、スマホ）が普及されるようになっていましたが、まだまだ紙媒体の搭乗券を使用している時代だったと思います。

私がスマホを持つようになったのは、2014 年だったと思います。それまでは Query キーボードが付随していた携帯電話を使っていましたが、教祖 130 年祭年祭活動の一環として、ヨーロッパに出講することになり、その時の書記から「メールの遣り取りができるようにスマホを持ってほしい」との依頼によりスマホを持つようになったのです。

その頃からだったでしょうか、今度は搭乗時刻 24 時間前になればインターネットでチェックインができ、スマホに搭乗券として QR (Quick Response) コードをダウンロードするシステムになりました。保安検査場やゲートで、バーコードの代わりにスマホ上の QR コードをスキャンしてもらえれば飛行機に搭乗することが可能になったのです。

この時も非常に心配して、暫くはこの QR コードの搭乗券を使うことに躊躇していました。しかし、周囲の人々が普通に使っているのを見て、紙に印刷した搭乗券を持参しながら、スマホ上の QR コードの搭乗券を使うようになり、今では当たり前のように QR コードの搭乗券を使っています。

最近はそのより進化して、一部の国際線搭乗の際には QR コードをかざすこともなく、ゲートでは顔認証で搭乗できるようになっています。

さて、QR コードは、デンソーウェーブという日本の会社の技術者であった原昌宏 (はら まさひろ) 氏などが中心となって、1992 年から開発が始まり、1994 年 9 月 26 日に公式に発表されました。

この会社では、バーコードを使用して部品管理をしていましたが、バーコードに含まれる情報量が少なく、そのためいくつかのバーコードを併用することが必要だったため、読み取り作業に時間が掛かるなど作業効率が悪かったことやバーコードが汚れると読み取れなくなったこともあり、情報量が多く盛り込めるコード開発が必要になっていました。そこで、原氏などが中心となって新たなコード開発が始まり、QR コードが発明されたのです。

バーコードは横方向にしか情報が含まれていないのに対し、QR コードは縦横に情報が含まれる二次元コードのため、膨大な情報量を 含むことが可能です。数字だけでなく英字や漢字などでも QR コード内に含まれるとのことで、また、場合によっては濃淡や色の違いがあっても読み取ることができそうです。

当初は 2 つのバージョンの QR コードしか開発されてなかったようですが、現在ではいくつかのバージョンがあり、当初発明された時よりも多くの情報量が含まれる QR コードが開発されてい

ます。

デンソーウェーブが特許権者ですが、QR コードを普及できるようにと、敢えて特許権を行使しない方針を採りました。そのため、今では世界中で QR コードが使用できるようになっています。もし、デンソーウェーブが特許をオープンにしていなければ、この会社内だけ、或いは関連会社内で使用されるだけで、世界には普及せず、そのため、現在の QR コードの恩恵を受けられず、今とは全く違った世界になっていたと思うのです。その点で、デンソーウェーブが特許権を無償で公開してくださったことに、世界中の人々、特に QR コードの恩恵を享受している人々や企業は、デンソーウェーブに感謝すべきだと思うのです。

QR コードが世界に普及した背景には、デンソーウェーブが特許を独占せず、敢えて公開したという英断があったからですが、自らの利益を超えて社会全体の利便に資する姿勢は「たすけ合い」に通じるものがあるように思います。

「おさしづ」に、

勝手というものは、めん／＼にとってはよいものなれど、皆の中にとっては治まる理にならん。

(おさしづ、明治 33・11・20)

とありますが、このデンソーウェーブの英断は、この「おさしづ」の精神に繋がるように思えます。親神様は、私たち人間が互いにたすけ合い、共に陽気ぐらしを目指すことを望まれておられます。その思召に向かう歩みは、一人ひとりの具体的な実践によって形づくられていくものではないでしょうか。日々の御教えの実践により、或いは日々の誠真実の心遣いの積み重ねが、陽気ぐらしの世界へと続く道筋になるのではないのでしょうか。

QR コードの普及が世界の利便性を大きく向上させたように、私たち一人ひとりが、自らの利益を超えて社会全体の利便性に資する真実の実践を積み重ねることこそが、やがては世界を陽気ぐらしへと導いていくのではないのでしょうか。

深谷 洋

立教 188 年秋季大祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、人間が陽気ぐらしするのを見て共に楽しみたいと、この世人間をお造りくだされ、天保九年十月二十六日、約束の年限の到来と共に、母親の魂のいんねんある教祖をやしろに貰い受けられ、宿し込みのいんねんある元の屋敷にお現れになり、よろづ委細の元の真実を明かし、世界一れつをたすけるたすけ一条の道をお啓きくださいました。爾來、この北米の地にても、ぢばの理を頂戴しておつとめをつとめ、教祖のひながたを頼りに、陽気ぐらし世界実現に向けて勤しむ者をお与えいただきしておりますが、これも偏に親神様の御守護と教祖の親心の賜物でございます。私共は世界たすけを目指して、日夜勇んでつとめさせていただきしておりますが、その中にも今日の吉日は、立教の元一日の縁の月に当たりますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせ、鳴物の調べも高く、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の秋季大祭を執り行わせていただきます。

御前には、よふぼく、信者一同が参り集い、日頃の御高恩に御礼申し上げ、これからも変わらぬ御守護を頂戴したいと、勇んでお歌を唱和して伏し拝む状をも御照覧くださいます、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月は、本部秋季大祭参拝に向けて、教会長を始め、大勢の教友が帰参致しますが、道中恙なくお連れ通りいただき、ぢばの理を頂戴して、それぞれが土地所に戻りましてからは、尚一層、道の御用の上に勇んで務めさせていただきますようお願い申し上げます。

来月には管内各地にて第五回ようぼく一斉活動日が実施され、また、来月十五日には、当伝道庁にてようぼくの集いを開催致しますが、管内の教友が互いに勇ませ合う機会になりますようお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭に向けての残りの年祭活動期間を喜び勇んで通り、各々が更に心の成人に努めておたすけ人として励み、また、世界の治まりや、身上者、事情を抱えている者のたすかりを願い、教祖にお喜びいただけるよう努めさせていただく所存でございます。何卒、親神様には、この真実の心をお受け取りくださいます、届かぬ所は幾重にもお仕込みくださり、尚も自由の御守護を賜り、一日でも早く世界の人々がたすけ合せて暮らせる陽気ぐらしの世の状に立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

秋季大祭神殿講話

アメリカ伝道庁長
深谷 洋

只今は皆様と共に、アメリカ伝道庁の立教 188 年秋季大祭を滞りなく、勇んで勤め終えることができ、有難く思っております。

日頃は、陽気ぐらし世界実現を目指し、また、アメリカ伝道庁の上にお務めくださり、誠に有難うございます。

只今、立教の元一日の縁のある当伝道庁での秋季大祭を勤め終えたところですので、先ずは立教の元一日の親神様の思召を確認したいと思えます。また、3 カ月後に迫っております教祖 140 年祭に大勢の方に参拝していただきたいと願っております上から、「おぢばがえり」に関して思うところを述べて、その大切さを改めて認識したいと思えます。

暫くの間、お付き合いいただきますようお願い致します。

毎年 10 月に行われる月次の祭典は秋季大祭と申します。

その理由は、天理教が天保 9 年 10 月 26 日に始まったからです。つまり、10 月 26 日は立教の元一日であり、その日を忘れないという意味も込めて秋季大祭と呼んでおつとめを勤めるのです。

何故、立教の元一日を忘れないことが大切なのでしょう。

立教の元一日は、先程も申しましたよう



に天保 9 年 10 月 26 日ですが、その数日前、教祖のお口を通して「このたび、世界一れつをたすけるために天降つた。みきを神のやしろに貰い受けたい」との親神様の思召が、初めて私たち人間に明示されたのです。

そこから親神様と人間との問答が始まり、そして、10 月 26 日午前 8 時頃に、教祖の夫様であられました中山善兵衛様より「みきを差し上げます」との返答があり、ここに中山みき様が月日のやしろとなられ、天理教が始まったのです。

このような一連の流れから、教祖のお口を通しての親神様の最初のお言葉には、天理教の存在意義が明示されています。それを天理教信仰者が忘れてしまったり、見失ってしまったりしては、天理教を信仰している意味が失われてしまうと言えるのではないのでしょうか。

私たちが天理教を信仰している目的は、この世界を陽気ぐらしへと建て替えるためです。世間的な言い方をすれば、この世界を平和にすることです。

先ずは、秋季大祭を勤める意義、そして立教の元一日の意義を、改めて心に治めていただきたいと存じます。

さて、天理教教会本部神殿の中心に「ぢば」があります。ここは人間宿し込みの地点であり、この場所に行くことを私たちは「おぢばがえり」と申していることをご存知だと思います。

私たちの信仰では、この「おぢばがえり」が大切です。何故ならば、何もかもが「ぢば」があって始まっているからです。

例えば、世界を陽気ぐらしへと建て替える「かぐらづとめ」は「ぢば」を囲んでしか勤められないのです。また、「おさづけの理」、「をびや許し」、「証拠守り」は、全て「ぢば」でしか頂戴できないのです。つまり、「ぢば」は私たち信仰の「原点」であり、御守護を頂戴する場所であるという意味です。「ぢば」が無ければ世界の救済が始まらないのです。それは、陽気ぐらし世界が実現できないという意味でもあります。また、この「ぢば」がなければ、私たちの信仰は不安定になると、私は思っています。

「おさしづ」に、

…ぢばには一寸理を収める。(中略) ぢばに一つの理があればこそ、世界は治まる。ぢばがありて、世界治まる。…

(おさしづ、明治21年7月2日)とあります。また、別の「おさしづ」に、

…残らずぢばから救ける。万事何から大

切、第一のたすけ、ぢばより救ける。…

(おさしづ、明治24年11月23日)ともあります。

これらの「おさしづ」から分かりますように、「ぢば」があって世界が治まり、「ぢば」より世界救けが始まり、そして、「ぢば」にて救けていただけるのです。

では、何故「おぢばがえり」するのかについて考えてみたいと思いますが、そのために、改めて「ぢば」の意義を確認したいと思います。

「ぢば」という地点は、「親神様がお鎮まりくださされている地点」、「最初の人間宿し込みの地点」、「かんろだいが据えられている地点」、「天理教の信仰の対象」、「よろづたすけの源泉」という意義を持っています。

「親神様がお鎮まりくださされている地点」とは、親神様がそこにいらっしゃるという意味です。

「おふでさき」に、

たん／＼となに事にてこのよふわ
神のからだやしやんしてみよ 3号40、135
とありますように、この世は親神様のお身体でありますから、どこを向いても、どこに居りましても親神様と向き合えると申しても良いのです。しかし、どこで親神様と直接繋がることのできるのかと申せば、親神様がお鎮まりくださされている地点である「ぢば」でしかできないのです。

ここからは私の個人的な悟りです。

この世界は神の身体であり、母親のお腹の中にいる胎児のように、私たちは親神様の懐に住まわせてもらっているのです。母親と胎児が臍で直接繋がっているように、

この臍こそが「ぢば」であり、親神様と私たちを直接繋いでくれている地点なのです。このように考えれば、「ぢば」が親神様と私たちが直接繋がる、どれほど大切な地点であるかをご理解いただけるのではないのでしょうか。

「最初の人間宿し込みの地点」とは、「元の理」のお話をご存知の方であれば理解していただけたと思います。最初の人間が「いざなみのみこと」の胎内に宿し込まれた地点が「ぢば」の一点なのです。そのような場所が「ぢば」です。

ですから、元をたどれば、私たち人間の故郷は「ぢば」であり、私たち全ての人間は、「いざなみのみこと」の胎内から生まれている兄弟姉妹と言えるのです。

「かんろだいが据えられている地点」とは、「おぢばがえり」された方は十分にご承知のことですが、「ぢば」に「かんろだいが据えられている、その言葉通りの意味です。

「おふでさき」に、
このやしきかんろふだいをすへるのハ
にんけんはじめかけたしよこふ 10号79
にんけんをはじめかけたるしよこふに
かんろふたいをすゑてをくぞや 17号9
とありますように、「ぢば」に「かんろだいが据えられているのは、「最初の人間が宿し込まれた地点」であることの証です。

「おさしづ」に、
さあ／＼理を知らそ。かんろうだいというは、何処にも無い、一つのもの。所地所何処へも動かす事は出来ないで。

(おさしづ、明治24年2月20日)



とありますように、「かんろだいが動かせないのです。つまり、「かんろだいが「ぢば」にしか立てられないのです。

「おふでさき」に、
めつらしいこのよはじめのかんろたい
これがほんのをさまりとなる 2号39
かんろたいすへるところをしいかりと
ぢばのところを心づもりを 9号19
これさいかたしかさだめてをいたなら
どんな事でもあふなきハない 9号20
とあります。これらの「おふでさき」は「かんろだいが据えられる以前に書かれたお歌ですが、「かんろだいが据える所を定めておいて、いずれ「かんろだいが立てたならば、この世界が治まり、どんなことがあっても危ないことはないとの仰せです。つまり、「かんろだいが「ぢば」に据えれば、安心して過ごすことができると

の仰せであると思うのです。

先程、母胎と胎児の関係の話をしました
が、それを思い出していただきたいと思
います。

臍と臍の緒を通して胎盤で胎児は直接母
親の身体と繋がり、そこから栄養や酸素を
吸収し、また、二酸化炭素など不要な物を
母胎に返し、胎児は母胎内で成長します。

この関係を親神様の身体と私たち人間世
界との関係に置き換えると、先程も申し
ましたように「ぢば」が臍で、そして、臍の
緒が「かんろだい」であるのではないかと、
私の悟りです。ですから、私たちは、「か
んろだい」を介して、「ぢば」で栄養や酸
素というような“エネルギー”を頂戴して
吸収し、さまざまな不要な物を置いてゆく
ことができるのです。つまり、「ぢば」は「よ
ろづたすけの源泉」と言えるのです。

また、「おさしづ」に

元という、ぢばというは、世界もう一つ
と無いもの、思えば思う程深き理。

(おさしづ、28年10月11日)
とありますように、「ぢば」は世界に一つ
しかなく、その理は深いのです。つまり、
親神様のお働きを直接受け取れる場所は
「ぢば」の一点のみという意味です。その
意味で「ぢば」は「よろづたすけの源泉」
です。

ここまで「ぢば」の意義についてお話し
してきましたが、このようなことを考えま
すと、如何に「ぢば」という地点は、私た
ちの信仰にとりまして大切な場所であるか
ということが認識できます。

また、天理教信仰者にとってだけではな

く、「人類のふるさと」として、世界の人々
にとっても大切な場所であることも理解し
ていただいたと思います。

その「ぢば」に参ることを、先程も述べ
ましたように「おぢばがえり」と私たちは
申します。親神様が人間を宿し込まれた場
所である「ぢば」に帰ることは、「人類の
ふるさと」に帰ることなのです。つまり、
私たち全ての人間には「ぢば」という故郷
があるという意味です。この故郷があるの
で、私たちは安心して暮らすことができ
ると思うのです。

人は、いつでも帰れる場所があることで、
心の安らぎを得られます。こうした心の拠
り所を心理学では「安全基地」と呼んでい
ます。

例えば、子供がちょっとした冒険、つまり、
親と少し離れて、今まで訪れたことない場
所、例えば、訪れたことのない友達の家
に一人で行けるのは、親や家という帰れる場
所である「安全基地」が存在するからです。
そのような帰れる人や場所の「安全基地」
があるからこそ冒険ができるのです。

旅行系のYouTubeの映像が多く出回っ
ていますが、ユーチューバーたちも帰れる
場所があるから世界中を回れるのではない
でしょうか。つまり、アメリカ人の旅行系
のユーチューバーには、アメリカという祖
国や帰れる家、或いは親なり家族が「安全
基地」として存在するから世界中を回れる
と思うのです。

このように考えますと、「ぢば」は全て
の人間にとっての「安全基地」であり、私
たち信仰者だけでなく、世界中の人々に

とつても「人類のふるさと」である「ぢば」が存在することは非常に重要な意味を持っていると言えるのではないのでしょうか。

別席のお話に次の一節があります。

世界から元の親里を慕うて帰るのは、ちょうど人間がその親を慕うてやぶいりに帰るようなものであります。又、世界からおぢば、親のそばと云うて慕うて帰る子供に隔てなく、お待ちかねになっているのが親のお心であります。この親を慕うて帰る子供の真実が、常に隔てなく子供の上を思うてその帰りをお待ち下される親のお心に通いまして、こゝに珍しいたすけをお見せ下され、自由の御守護をなし下されるのでありますから、この元のぢばへ真実の心をはこぶのが肝心であります。

ここに「おぢばがえり」の重要性が説かれてあります。私たち人間が親神様を慕うて「おぢばがえり」する真実の心と、親神様が私たち人間の帰りを待っておられるという親心の2つが作用して、「ぢば」では「めずらしいたすけ」を頂戴できるとの仰せです。「おぢばがえり」は、ただ単に「ぢば」を慕うて帰るという意味だけでないのです。「ぢば」に真実の心を運ぶことによって自由自在の御守護を頂戴できるのです。如何に「おぢばがえり」が大切であるかという意味であります。

本日は、来年の教祖 140 年祭に向けて、一人でも多くの方をお誘いして「おぢばがえり」していただけるようにとの思いを込めて、「ぢば」の意義と「安全基地」という視点から、「おぢばがえり」の大切さをお話し致しました。

しかし、「おぢばがえり」は、ただ単に「ぢば」に人をお誘いするだけではありません。お連れする方にとって、いつでも帰れる「安全基地」である「人類のふるさと」、即ち「ぢば」の存在を知っていただく大切な機会です。また、「よろづたすけの源泉」である「ぢば」に心配事を置いていき、親神様から自由自在の御守護という“エネルギー”を頂戴できるよう導くことも、「おぢばがえり」の大切な意義の一つだと私は思っております。

ですから、どうぞ多くの方に「おぢばがえり」をお勧めください。特に来年の教祖 140 年祭に向けて、周囲の方々に「ぢば」の尊い意義を伝えて「おぢばがえり」を勧め、お連れ帰りいただければ嬉しく存じます。

以上、この時期に思いますこととお話して、本日の私の務めを終えたいと存じます。

ご清聴いただき、誠に有難うございました。





伝道庁連絡



秋季大祭

祭主 庁長
 扈者 川上和海 森下レイモンド
 賛者 富澤ポール 大西太一
 指図方 奥井俊彦
 神殿講話 庁長（英）

教会事情

シータック教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび予定：2025年11月末
 後任予定者：長尾照明
 奉告祭予定：2025年12月14日（日）
 カリフォルニア教会：電話番号変更
 ※教会長携帯電話番号、FAXは撤去
 ノウスアメリカ教会：電話番号変更
 ※教会長携帯電話番号、FAXは撤去。

TSA 冬季錬成会

TSA 冬季錬成会は、12月26日（金）～29日（月）の日程で開催します。内容は講話、餅つき、HARP アクティビティー、スキー等です。申込用紙は既に配布されており、伝道庁神殿の後方にも置いています。
 申込締切り：12月6日です。

年末年始行事予定

12月26日（金）の遥拝式後、午後12時30分より伝道庁年末大掃除を行います。大掃除のお手伝いのできる方、また、同日の昼食を希望される方は、11月30日（日）までに伝道庁にご連絡下さい。

12月28日（日）は餅つきを行う予定ですので、伝道庁近郊の皆さんのひのきしんをお願い致します。
 元旦祭は、1月1日（木）午前7時（午前6時40分より開扉・献饌開始）より執り行いますので、伝道庁近隣在住のおつとめ奉仕者で、おつとめ役割を務められない方は11月30日（日）までに伝道庁にお知らせ下さい。

修養科英語クラスについて

修養科英語クラスが来年3月末から3ヶ月間、おだばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、お早めに伝道庁にお知らせください。

修養科スペイン語クラスについて

来年9月1日から11月27日まで、修養科スペイン語クラスがおだばにて開講されることになりました

ので、お知らせします。日本国査証の必要な志願者は、お早めに伝道庁にお知らせください。

教会長資格検定講習会について

例年9月27日から、5名以上の受講者がいる場合に開講している教会長資格検定講習会英語クラスの日程が変更され、来年より10月27日から開講することになりました。

全教一斉ひのきしんデー

来年の全教一斉ひのきしんデーの計画を各地区にてお願い致します。各地区担当者の方への計画書用紙を配布しますので、12月26日までに伝道庁に提出して下さい。

一れつ会特別扶育募集

2026年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶育」の募集をします。締切りは12月31日です。

教祖 140 年祭【特別展示】

今秋より、教祖ゆかりの品を中心とした教祖 140 年祭「特別展示」を開催

日程：立教 188 年 11/22 ～ 26・29・30、12/6・7・13・14・20・21・25・26
 立教 189 年 1/24 ～ 27

時間：午前 10 時～午後 3 時まで

* 毎月 26 日は午後 1 時より開催

* 立教 189 年 1 月 26 日は午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分までの開催

場所：おやさとやかた南右第 2 棟

天理教ホームページをご確認下さい（日本語のみ）。

<https://www.tenrikyo.org/se140/>

教祖 140 年祭「海外教友の集い」

海外部では、教祖 140 年祭に帰参される海外の教友が一堂に会して、年祭活動で得た喜びを分かち合い、更なる成人の歩みを進めることを誓い合う機会として開催します。

日時：立教 189 年 1 月 24 日（土）

午後 2 時 30 分～午後 4 時 45 分

場所：天理教海外部（おやさとやかた東右第四棟）

内容：感話（弁士 3 名）

よろづよ八首総立ちまなび、歓談（軽食あり）

参加御供：500 円

通訳言語（予定）：英語、中国語、韓国語、タイ語
 ポルトガル語、スペイン語
 ネパール語、フランス語

申込期間：立教 188 年 10 月 27 日～11 月 29 日

※日曜・祝日以外の 9:00 ～ 11:50 / 13:00 ～ 15:30

※各直属を通して申し込んで下さい。

※事前に軽食の申し込みが必要です。

詳細・参加申込書に関しては、リンク先 (<https://qr.paps.jp/thDga>) をご確認ください。（日本語のみ）

立教 189 年 1 月末教人資格講習会 教会長資格検定講習会開催日変更

願書受付日：1 月 23 日、24 日（従来通り）

開催期間：教人資格講習会

【変更前】1 月 27 日～2 月 10 日 →

【変更後】2 月 1 日～15 日

教会長資格検定講習会

【変更前】1 月 27 日～2 月 16 日 →

【変更後】2 月 1 日～21 日

教祖 140 年祭後の教会長御招宴

対象：直属教会長を除く全教会長 ※御招宴時点

日時：2026 年 1 月 28 日～2 月 1 日 正午～13 時 30 分

※いずれかの日にちに 1 回出席

- ・ 海外教会長は、1/28 の出席になっています。
- ・ 通訳の不必要な海外教会長で 1/28 以外に直属としての割り当てがあれば、その日でも出席可能です。その場合、各々より直属教会に変更をお願いして下さい。

教祖 140 年祭 JR 天理教団体割引について

天理教おちばがえり団参券とは別に、2025 年 9 月 1 日～2026 年 1 月 31 日までの期間、8 人以上の団体が対象となる割引がございます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

JR 天理教おちばがえり団参券の新区間について

教祖 140 年祭に向けた特別措置として、2025 年 9 月 1 日～2026 年 1 月 31 日までの期間、JR 団参券に「京都-天理」の新コースが追加されます。詳細は直属教会、またはアメリカ伝道庁書記までお問い合わせ下さい。

立教 189 年 1 月と 4 月の別席に関して

教祖 140 年祭前後の 1 月や御誕生祭前後の 4 月は、別席者の増加が予想されることから、事前にライブの日時を決めています。天理教ホームページの「別席外国語スケジュール」、または海外部のホームページの「別席外国語スケジュール」から、予定をご確認ください。



天理教ホームページ



海外部ホームページ

天理大学国際学部日本語学科入学案内

天理大学国際学部日本語科（留学生対象）にて日本のことを学びたい方は、以下の URL をご参照下さい。

『入試情報サイト』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/>

『大学案内』『入試ガイド』

<https://www.tenri-u.ac.jp/ent/request/>

『日本学科留学生＜国外在住＞選抜入試概要』

https://www.tenri-u.ac.jp/ent/system/jp_int_etc/

入学課：Tel +81-743-62-2164, Fax +81-743-63-7368

E-mail, nyushi@sta.tenri-u.ac.jp

尚、海外受験の場合には、来日の必要はなく、書類提出のみで受験できるとのことです。

立教 189 年 1 月基礎講座（外国語）について

立教 189 年 1 月 24 日、25 日、27 日は、時間と言語を予め決定して開催予定です。申込締切は 1 週間前までとなっています。布教部と海外部の HP (Website) に掲載予定です。問い合わせは海外人材育成委員会までお願いします。

通訳について

年祭当日の通訳言語は、英語、中国語（北京語、広東語）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、タイ語、ネパール語、モンゴル語の予定です。

外国語の神殿案内、をびや許し、お守り、お誓いの通訳は、3 日前までに翻訳課受付に申し込んで下さい。

立教 189 年 1 月 25 日～26 日の教庁部署に関して

立教 189 年 1 月 25 日と 26 日の教庁の部署は、教務課（夕方のみ）、教庁管理室、室務課、宗教法人課のみが開いています。その他の部署は閉まります。

新任教会長

去る 7 月 26 日のおはこびをもって、高垣弘明さんが、イリノイ教会の会長に任命されました。奉告祭は 10 月 4 日でした。



「私の抱負は、まず第一に、教会内容の充実に向けて一生懸命取り組みたいと思います。また、シカゴにおける次世代の活動を徐々に拡大していくために最善を尽くしたいと思います。」

各会連絡

ふしん委員会

- ・浜田准一ハイシヤスタ布教所長が、松の剪定して下さいました。

布教委員会

- ・教会長・布教所長・出張所長による伝道庁月次祭当番をおつとめ頂き、ありがとうございます。以下に12月までの当番をお知らせ致します。どうぞよろしくお願い致します。
11月：国領ロバート、平井信乃、丹羽ハミルトン
12月：屋敷ゲリー、中川一三
- ・10月25日に回廊拭きひのきしんは、13名の方がご参加下さり、つとめさせて頂きました。有難うございました。来年1月25日の回廊ひのきしんはありません。

教化育成委員会

- ・ツデーコースを2026年3月21～22日の期間で、ロサンゼルスとニューヨークにて開催致します。今月より受付を開始します。開催には最低4名の参加が必要となります。
申込み締め切り：2026年3月1日
- ・おやさと練成会事前講習が、12月28(日)～12月30日(火)の期間で開催されます。開講式は午前8時30分です。TSA冬季練成会に参加し、その後、事前講習開始日から参加して頂けます。対象の学生、親御さんにはご連絡をしましたが、他に2026年の7月までに17歳になる学生で、連絡が来ていない方がおられましたら、おやさと練成会小委員会スタッフまでご連絡下さい。

広報委員会

- ・教祖140年祭に向けて活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
情報提供先：川上 kamishuyo@hotmail.com
林 takhayashi@gmail.com
- ・伝道庁ホームページは、管内の皆様にご活用いただけるように作成し、また常にアップデートを努めております。是非、伝道庁ホームページをご覧いただき、また周りの方々に紹介いただきますようお願い致します。
- ・伝道庁ホームページのドメインネームは、Tenrikyo.comからTenrikyoAmericaCanada.orgに変更されました。

Future Path 委員会

- ・育成プログラムに関するアンケートを引き続き行なっています。Joy Workshop, スリーデーコース、修養会、よふぼくの集い、教会長夫妻研修会などの行事をより良いものにできるよう、役立てさせていただきます。締切：11/30。

翻訳委員会

- ・10月18日(土) 通訳者ワークショップ
- ・11月3日(月)～7日(金) 翻訳会議

婦人会

- ・地区総会
カナダ西部地区総会
11月23日(日) 午前10時 於：グランビル教会
- ・天理教婦人会第108回総会
総ての会員がおちばへ人を誘っておちばへ一別席者とともに—
2026年4月19日(日)
式典：午前9時30分 於：本部中庭
記念行事：・講演会 4月18日(土) 午後5時
会場：第二食堂、東講堂、
東右第一棟4階講堂、
東左第五棟4階講堂
・支部の集い 式典終了後

少年会

- ・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきます。
- ・来年の少年会おつとめまなび総会に向けて、各教会、布教所、出張所、及び各家庭にて、おつとめの練習をしましょう。
- ・鼓笛隊員募集中！鼓笛隊は、仲間と共に一手一つという教理を体得しながら、おつとめに役立つ音感・リズム感が身につく活動です。是非ご参加ください！
- ・新生児や転入された少年会員がおられましたら、【moto1884@icloud.com】までお知らせ下さい。

青年会

- ・アメリカ青年会の活動に関して、意見やアイデアを募集しています。以下にご連絡ください。
seinenkainorthamerica@gmail.com

NYセンター

- ・11/23 青年会ニューヨーク地区総会
- ・12/21 婦人会ホリデーバザー



ワシントン D.C. 地区少年会総会

10月12日(日)に、キャピタル教会にて、ワシントンD.C.地区少年会総会が執り行われました。おつとめまなびでは3下り目と4下り目をつとめ、式典後は、お好み焼き、焼きそば、たこ焼き、から揚げ、トルネードポテト、クレープなどの夏祭りメニューに舌鼓をうち、食後は射的、輪投げ、バルーンアート等のゲームを楽しみました。参加者は少年会会員が12名、若いスタッフが6名、その他ひのきしんの方が13名でした。



教祖 140 年祭おぢばがえりに日本国パスポートについての注意事項

これまで、日本国パスポートの発給は約 1 週間で行われていましたが、**現在は 1 か月程度の日数を要することになっています。**つきましては、教祖 140 年祭のためおぢばがえりを予定されている方は、今一度その有効期限をご確認いただき。更新が必要な場合は余裕を持って申請を進められることをお勧めいたします。

その他、パスポートについての詳細は以下のリンク、また QR コードから領事館のウェブサイトをご確認ください。

https://www.la.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/m02_00.htm



| | | |
|---|---|---|
|  <p>TENRIKYO MISSION HQ IN AMERICA & CANADA</p> <p>WE'RE ONLINE!</p> <p>www.TenrikyoAmericaCanada.org</p> <p>Stay Updated! Scan the QR code with your camera phone.</p>  <p>携帯のカメラでQRコードをスキャンして、アメリカ伝道庁ウェブサイトの最新情報をチェックしてください!</p> | <p>CALENDAR</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/events-calendar</p> | <p>BLOG</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/blog-timeline</p> |
| <p>NEWSLETTERS</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/publications</p> | <p>SERMONS</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/sermons</p> | <p>OYASAMA-INSPIRED STORIES</p>  <p>tenrikyoamericacanada.org/stories-inspired-by-oyasama</p> |

The 140th Anniversary of Oyasama

Monday, January 26, 2026 (Tenrikyo 189)

10:30 A.M.

Let us return to Jiba
with one focus in mind.



TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

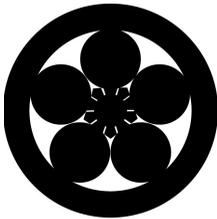
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES, CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.